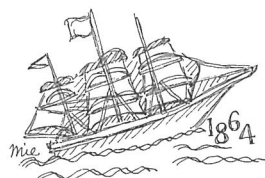


DOSHISHA REPORT



法人部

●2006年春の叙勲・叙位

同志社大学名誉教授倉敷千稔氏が瑞宝中綬章を受章され、5月11日国立劇場大劇場で伝達式が行われた。

●2006年度入社式

4月3日、大学神学館礼拝堂にて入社式が行われた。本年度の採用は、大学教員24人、女子大学教員10人、高等学校教員4人、香里中学校・高等学校教員5人、女子中学校・高等学校教員4人、国際中学校・高等学校教員3人、中学校教員1人、小学校教員14人、大学職員8人、女

子大学職員4人、香里中学校・高等学校職員1人、中学校職員1人の計79人である。大谷實総長と野本真也理事長から歓迎のことが述べられ、野本理事長から一人ひとりに辞令が手渡された。

●同志社キリスト教教育講演会

3月31日、2006年度に新たに入社される社員を対象に、同志社の建学の精神、同志社の歴史、同志社のキリスト教主義等を理解する機会を提供することを目的として、大谷實総長と本井康博大学神学部教授を講師に迎え、大学寒梅館クローバーホールで同志社キリスト教教育講演会が開催された。大谷實総長は「同志社の教育体制」、本井康博大学神学部教授は「志のある学園―新島襄と同志社建学精神」を演題に講演された。2006年度入社の社員はもとより、出席者は改めて同志社の建学の精神等に想いを馳せ、有意義な時間を過ごした。

●2005年度同志社総長賞表彰式

同志社総長賞は本法人において、スポーツ活動および文化活動の国際大会、国際コンクール等において入賞を果たした優秀な学生、生徒または園児に対して、総長がこれを顕彰することを目的として2003年度から設けられた賞である。

2005年度は、大学長からの推薦を受けて9名の受賞者を決定した。

表彰式は、2006年3月25日、評議員会終了後に大学神学館礼拝堂で執り行われ、受賞者にはそれぞれ表彰状と、副賞として楯と図書カードが贈られた。

大学

●同志社小学校「明心館」が竣工

2005年1月から建設を進めてきた同志社小学校の校舎「明心館」が完成、竣工式が1月25日、大谷實総長、野本真也理事長、八田英二学長ら関係者の出席を得て行われた。建物は鉄骨・一部鉄筋コンクリート造、建築面積4347㎡、延床面積7406㎡で、地上2階建。教室や図書室、家庭科室、チャペルなどの諸施設・設備のほか、校舎内部に創造性を育む広大な中庭「チャペルコート」がある(約2560㎡)。また、出入り口を一カ所にするなど、セキュリティにもさまざまな工夫が凝らされている。式典では、大谷實総長から「小学校開校は創立者新島襄の夢であり、同志社人の責務であった。一貫教育の充実を図り、世界で活躍する人材を育てたい」との挨拶

拶があった。

(巻頭グラビアおよび本文12頁参照)

●学研都市キャンパス計画

1月25日、八田英二学長が山田啓二京都府知事を訪問し、「学研都市キャンパス」開設を報告、河合規子木津町長や立石義雄関西文化学術研究都市推進機構理事長を交え将来構想について懇談した。

新キャンパスは、京田辺キャンパスの南東約5キロ、旧キヤノン「エコロジー



左から 片山傳生副学長、八田学長、山田知事、立石理事長、河合町長の各氏

研究所」跡地。1月22日にキヤノン(株)と売買契約を締結した。敷地面積約5万㎡。建物約8500㎡は改修し「快風館」と命名。今出川・京田辺に続く第3のキャンパスとして、医学、健康科学を含めた新たな理工系研究拠点を目ざす。

隣接地には交流協定を結んでいる医療法人医聖会の「学研都市病院」があり、連携して臨床教育や臨床研究を進める予定で、現在開設が検討されている「生命科学部」と「スポーツ健康科学部」のキャンパスとしての利用も見込まれる。

●国際交流女子寮が竣工

2002年度末で廃止された女子3寮(ベタニア寮・鴨東寮・北志寮)に代わる女子寮が北志寮跡地に完成、3月1日に竣工式が行われた。リチャーズハウスと命名された同寮は、留学生との交流を大きな目的の一つとしている。

定員は日本人学生24人、留学生16人の計40人。建物は鉄筋コンクリート造、建築面積370㎡、延べ床面積1283㎡で、地上5階建てである。これで大学の寮は、男子寮4、女子寮3、男女共用のアーモスト寮を合わせて8寮となった。

●スタンフォード大学と学術協力・交流に関する協定締結

6月30日、有終館(大学今出川校地)において、八田英二大学長と林敏彦スタンフォード日本センター理事長が「学術協力及び学術交流に関する協定書」に調印した。協定内容は、大学は、同センターに今出川校地の明徳館2階約2000㎡を無償提供するほか、同センターの留学生に図書館など教育施設の利用の便を図る。スタンフォード大学は、同志社大学の大学院生2人を授業料免除の非正規学生として受け入れる、というもの。

スタンフォード大学が大学間の協定を結ぶのは、日本では東京大学、京都大学に続き3校目。同センターは、1989年に日本での教育研究拠点として京都市左京区岡崎に設置された。

今回の協定締結により、両大学は双方の学生の充実した交流を目ざし、ジョイントセミナーの開催や共同授業の展開等を図るほか、研究面では共同研究プログラムの展開により、双方の研究の量的、質的活性化が期待される。

女子大学

●音楽学科声楽オペラ公演

3月5日 春の到来を上げるおだやかな日差しの中、

中、新島記念講堂において、オペラクラスは第19回卒業公演《フィガロの結婚》を行い、若さ溢れる生き生きとした舞台を作り上げた。

本年はモーツァルト生誕250周年と相まって満席の大盛況となり、心ときめかせるお客様的心と舞台が一つになった、思い出深い公演となった。

この成功を胸にさらなる研鑽を積み、次回の第20回記念公演に臨む。



「フィガロの結婚」の一場面

●教育開発推進センター設置

2006年4月、教育開発推進センターは本学の教育の継続的な充実と発展を目的として、全学的な教育施策の企画・開発および教育活動の改善を行う部署と

して設置された。大学教育の質的充実についての要求はいよいよ厳しくなることはあっても緩むことはない。本学ではこの認識に立って、学生および社会の要求に応えられる質の高い教育実践のための効果的プログラム策定に努めていきたいと考えている。そこで、本学の建学の理念・各学部学科の教育目標を明確にし、リベラルアーツ教育と専門分野教育とを融合しつつ、これを達成できる方策を研究会も設けて検討し始めたところである。

今後、FDの推進、教育内容・方法等の改善、授業評価・教育評価の実施に関わる多様な課題について、具体的な提案を常任委員会に向けて行い、女子大学の教育の発展に寄与できることを期している。

●薬学部6年制課程移行

2005年4月に開設した薬学部医療薬学科は、薬剤師の国家試験の受験資格が法律改正されたことに対応し、2006年4月から6年制課程に全面移行した。近年の医療技術の高度化や医薬分業の進展に伴い、薬剤師にはより高度な能力が求められており、本学6年制カリキュラムにおいても、医療現場で臨床に係

る実践的な能力を培う臨床薬学分野の科目の充実を図っている。今後も、社会のニーズに適切に対応し、チーム医療の一翼を担う質の高い薬剤師の養成をめざす。

●2006年度

新入生学外オリエンテーション

4月3・4日

履修登録・学生生活の相談やレクリエーションを通じて教員・友人との親交が深まり、これからの学生生活への不安を吹き飛ばす貴重な2日間となった。

各学科・学部の開催場所、参加者人数は次のとおり。

①日本語日本文学科(於・宇治・花やしき)

新入生157人、リーダー18人、教職員16人

②現代こども学科(於・リーガロイヤルホテル京都) 新入生113人、リーダー10人、教職員18人

③薬学部(於・美杉リゾート) 新入生151人、リーダー23人、教職員44人

●春季リトリート

5月27・28日 「出会いと自己発見への旅」をテーマに「湧き出る発想」と題して三浦啓子氏

(「グラスアーツ・イスト」同志社女子大学卒業生)に講演いただいた。氏は「三浦ブルー」として青いスタンドグラスが有名であり、国内外の著名な施設にその作品がある。発想を大切に、夢を持って仕事をする女性に輝き、家庭を大切にしながらも、目標に向かって情熱的に生きることの素晴らしさを教えていただいた。目にも鮮やかな新緑に囲まれたチャペルで礼拝を守り、参加者82人は交流を深めて、びわこリトリートセンターでの一泊二日の充実したひと時を過ごした。

高等学校

卒業式

3月10日
第58回卒業式が挙行され、390人の生徒が母校を巣立った。特に、3年間無遅刻、無欠課、無欠席、礼拝もすべて出席した生徒の真摯な努力を顕彰し、校祖新島襄の『庭上之一寒梅』に因んで設けられた「寒梅賞」の受賞者は6人を数え、卒業後も時流を越えて「あえて風雪に逆らって花開こうとする寒梅」に似た生き方を大切にしてほしいとの願いが託された。

学校スキー

3月12・16日

今年の冬は異常な大雪に見舞われ、例年だと春の陽射しで雪焼けを気にしながら愉しむ戸隠での学校スキーも、真冬並みに寒さ対策をして30名の生徒が参加した。

遠足

5月2日

滋賀や京都のキャンプ場を行き先とし、クラスごとに計画を立て実施する遠足も今冬の異常気象の影響を受け、近江今津のキャンプ場に行つた数クラスは、思いもかけぬ残雪が広がっている光景を目にし、肌寒い天候のなか、火の回りを囲むようにして、焼きそばやバベキューなどを作り、温かい料理に一息つくような状態だった。

花の日礼拝・施設訪問

6月1・2日

庭の花を捧げてくださいと生徒に呼びかけ、集まった花を壇上に捧げ、自然の美しさ・命の輝きをたたえる花の日礼拝。今年は花の数も多く、放課後はその花を携えてバプテスト・ホームを生徒有志ら20余名で訪問。ホザナ・コーラス部員がこの日のために練習を重ねてきた宗教曲を数曲歌うと、ご老人たちや職員の方たちもしばしばそのハーモニイの美しさに聞きほれ、夢のような穏やかな時を過ごされていた。



「バプテスト・ホーム」を訪問した生徒たち

球技大会

6月7日

教育実習の期間中行われる球技大会はやつと初夏らしい陽射しに恵まれ、緑濃いキャンパスのなか、比叡山の姿に似たフェアプレーをクラス対抗で繰り広げた。午後になると、下校時の同志社小学校の児童たちが金網越しに可愛い声援を送っていた。

団体鑑賞

7月10日

劇団京芸創立55周年記念公演、井上ひ

さし作「きらめく星座―昭和オデオン堂物語―」を京都府立文化芸術会館で2・3年生が鑑賞。第2次世界大戦前後、東京浅草の小さなレコード店「オデオン堂」を舞台に、戦争に突き進む暗い時代にも禁じられた明るい歌声が響く。戦後60年の今、高校生はどんな思いで、押し寄せる時代の波に抵抗しながらひたむきに生き抜いた庶民群像を見ただろうか。

1年クラス合宿

7月13・14日

「寝食を共にし、語り合い」を通してクラスの親睦を図る目的で、クラスごとに実行委員が計画。今年はお発前に全クラスがチャペルに集まり、礼拝を行い、大塚校長が「クラスで合宿をする意味」の奨励をしたあと、カレッジ・ソングと応援歌の練習をし、行き先は違っても気持ちを一つにしてそれぞれの宿泊先に向かっていった。

ウエスリー交換留学

7月21日・8月7日

14年目となるオーストラリア、メルボルンのウエスリーカレッジとの恒例行事。今年は40名を超える生徒が応募し、男子4名、女子5名が本校を代表して渡豪する。

香里中高

始業式

1月10日

中学校入試

1月14日

537人中欠席は54人。入試成績では、久々に男子の方が上位であった。

第55回高校卒業式

3月7日

女子生徒の振袖姿も定着してきた。卒業生一人ひとりの名前を呼びあげ、2時間近くをかけた式となった。

第25回全国中学生人権作文コンテスト

大阪大会で本校の生徒が最優秀3編に選ばれた。2年生の吉田昌司君が大阪法務局長賞に「祖母の笑顔」で。1年生の北村昌大君が毎日中学生新聞賞(毎日新聞社)に「サッカースクールのメダル」で。2年生の山本明日香さんが産経新聞社賞に「白い杖」で。

中学新入生登校日

3月19日

249人が出席。

教職員会議

4月6日

旧高校3年生が宝塚音楽学校に合格。大学には退学届を提出したことが判明した、との報告などがあった。

読書の時間

4月12日

新中学1年より始業前の読書の時間を

復活した。欠席、遅刻が少なくなること、授業の始まりがスムーズに運ぶことをねらっている。

中学1年オリエンテーション

4月19日・21日

岡山県美作市奥湯ノ郷で実施。屋内スポーツ大会やクラス別活動(柵原敏道跡見学、備前焼実習、イチゴ狩)などを行った。

新任教職員歓迎会

5月22日

本年は専任で教員3人、職員1人の採用があり、講師の先生方にも参加していただき、親睦を深めた。

教育実習

5月25日

本校が高校から共学にした女子一期生を含め24人を教育実習生として受け入れ、中学、高校に分かれて教壇に立った。

オープンキャンパス

5月28日

入試説明会、施設見学、体験授業とあり、約1200人が参加。授業は今年は6年生のみを対象としたが、例年以上に熱気があった。

体育祭

高校5月30日、中学5月31日

人工芝グラウンドになって初めてだったので、何かととまどったが、一周400mでのリレーはなかなか迫力があつた。



人工芝グラウンドでの体育祭（向かって右は第2体育館）

●文化祭企画書提出

6月14日
今年は、香真館での劇の希望が多く抽選で決めるという話も出ている。

●期末考査

7月3日～8日
高校3年生は6月30日より始まった。

●TOEIC、模擬試験

7月11日
高校3年生はTOEIC、高校2年生は模擬試験に挑戦した。



球技大会の一コマ。バレーボールで奮闘する高校生

●芸術鑑賞

6月14日
京都コンサートホールにて、末廣誠指揮、京都市交響楽団によるオーケストラ演奏を鑑賞した。曲目は、ドビュッシー「小組曲」、ギター独奏に鈴木大介を迎えてのロドリゴ「アランフェス協奏曲」、モーツァルト「交響曲第41番ハ短調ジュピター」。

●花の日礼拝

6月15日には聖歌隊の合唱、ハンドベルの演奏による賛美礼拝をもち、16日に

女子中高

●卒業式

2月18日
高校卒業式
3月17日
中学卒業式
中学、高校別々に卒業式を行った。それぞれの進路に向かって巣立っていった。

●修学旅行

中学2年生は、3月18～20日の2泊3日の日程で九州、長崎方面に、高校2年生は、3月18～21日の3泊4日の日程で沖縄に修学旅行を実施した。

●スキー学舎

3月18～22日まで高校1年生の希望者を対象に、北志賀、竜王でスキーの講習会を実施した。

●入学式

4月7日
中学校246人、高等学校264人を迎え、入学式を行った。

●女子部創立記念日

4月20日
女子部創立126周年の記念礼拝をもった。礼拝の特別講師には西が丘教会牧師奈良いずみ先生をお迎えし、「こころを、常によびよ」と題して、奨励をしていただいた。

●春季遠足

5月12日
中学2年生から高校3年生が各学年ごとに遠足を行い、クラスの親睦を深めた。

●中学1年生修養会

5月12～14日
ユニトピアささやまで、「同志社で学ぶ」―自分を見つめ、友達を理解して、隣人になろう―を主題にして修養会をもった。修養会を通して同志社に学ぶ意義を考えた。

●国際交流

米国サンフランシスコ郊外にあるヌエバ校との交流で春休みに本校生徒が現地ホームステイをし、5月6～13日までヌエバ校生9人がホームステイし、本校へ体験入学した。文化交流し、なかなか時を過ごした。

●母の日礼拝

5月19日は母の日礼拝をもった。カーネーション販売の収益金および募金はハenson病救済団体の好善社とIDEAJAPANに送った。

●球技大会

高校生は5月17日、中学生は6月21日に、球技大会を実施した。バレーボール、ドッジボール、ポートボール、バスケットボールにと覇を競った。中学、高校ともに晴天に恵まれ、楽しい一日を過ごした。

国際中高

●中学合唱フェスティバル

2月3日
恒例になった京田辺市の一人暮らしの老人の会「むつみ」の皆さんをお招きして、華やかななかにも心温まる楽しい一日となった。クラス全員で工夫を凝らし、クラス最後の催しを盛り上げてくれた。

●卒業式

中学校 3月20日
高等学校 3月12日
それぞれが希望を胸に、学び舎を巣立って行った。

●研修旅行

3月14～17日
中学2年生が長崎の、高等学校2年生

が沖縄の各研修旅行が実施された。1年間かけて十分に築きあげてきた「平和学習」の集大成として現場で確認し、自分たちの思いを「平和宣言」に託した。

●入学式

4月6日
中学校 5月1・2日
高等学校 5月8・9日

●宿泊研修

新入生たちが、同志社で学ぶことの意味を考えながら、新しい友達と共に生きること学んだ。2日目には校祖墓参を行い、入学と学校生活の決意を校祖の墓前に報告した。

●中学校遠足・高等学校球技大会

5月16日



中学1年生の遠足におけるソーセージ作り

前日が雨で延期となり心配されたが、よい天候に恵まれ楽しい1日となった。中学校は学年ごとに目的地をかね、それぞれの場所です夏の1日を満喫した。

高校生は思い思いのクラスTシャツを揃え、優勝を目ざして頑張った。休日も返上して練習をしたクラスもあり、大いに盛り上がった。

●セクシュアリティに関する講演会

5月21日

自分を大切にすること、自分と同じく、他者を大切にすること。性の問題はそれぞれの個性が向かいあわなければならぬ問題であるとともに、社会的な基盤を成す人権問題でもある。講演会は講師の穏やかな語り口の中にも厳粛な雰囲気にも包まれた。それぞれが深い思いを抱いたことであろう。

●オープンスクール

5月24日

今年度からの新たな取り組みとして行われた。本校の特色ある授業や学校開放などに100人を越える生徒・保護者が来校した。半日の短い時間であったが、おむね好評で、生徒たちも満足してくれようであった。

●国際交流

今年度も世界各国から多くの友人たち

が本校を訪れ、有意義な交流が行われた。

●ヌエバスクールとの交流

・オーストラリア・キャンベラ代表チームとの国際親善試合（サッカー部）

また、本校生徒たちも海外研修にチャレンジした。主な交流プログラムは、フリップスアカデミー・サマーセッションへの参加

・サマープログラム・in Amherst

・ヌエバサマースクールへの参加

中学校

●合唱祭

2月14日

1年を締めくくる毎年恒例の合唱祭では各クラスが熱唱、すばらしい合唱を披露した。

●卒業式

3月19日

卒業生323人（女子165人、男子158人）。今年は、暦の関係で日曜日の午後となった卒業式。式後、体育館で卒業パーティが行われた。

●ヌエバスクール訪問

3月25日～4月2日

毎年の恒例となった春のヌエバスクール訪問には男女各4人、計8人の生徒が参加。ホームステイ、授業参加など、

有意義な交流を行った。

●入学式

4月5日

新入生293人（女子152人、男子141人）。今年度新入生から1クラスの定員が従来の40人から36人となった。

●新入生オリエンテーション・キャンプ・創立者墓参

4月19～21日

近江八幡国民休暇村で1泊2日のキャンプと創立者の墓参を2期に分けて行った。

●遠足

4月21日

2年生は滋賀県、琵琶湖畔の松の浦キャンプ場で、3年生は滋賀県希望ヶ丘で飯盒炊爨を行い、クラスの仲間との親睦を深めた。

●ヌエバスクール生との交流

5月8～12日

ヌエバ生の本校訪問も早6回目となり、今回は男子6人、女子2人が本校生徒宅にホームステイし、約1週間授業やクラブ活動に参加して交流を深めた。また11日に行われたWADAOKO NIGHTで和太鼓演奏なども体験し、ホストファミリーとともに楽しい時を過ごした。

●オープンキャンパス

6月3日

今年のオープンキャンパスには小学生とその家族の皆さん約2600人の参加



オープンキャンパスでのLL教室授業風景

があった。礼拝体験や授業体験、入試相談のコーナー、クラブ見学など多彩なメニューで本校の教育内容を紹介。どのコーナーも盛況で、授業体験などでは教室に入りきれないほどの参加者があった。

●春季宗教週間

6月5～9日

各日の講師および奨励題は、別表参照。

9日 花の日礼拝

花の日礼拝に持ち寄られた多くの花を持って、生徒有志が盲義護老人ホーム「船岡寮」を訪れ、ホザナコーラス部や宗教ハンドベル部の歌や演奏、ピースリンク部からのプレゼント贈呈などを行い交流した。

●全校バレーボール大会

6月22日

●英語暗唱大会

6月23日

2006年度5中高『秋季宗教教育強調週間』

中学校	国際中高		香里中高		女子中高	
	高校	中学	高校	中学	高校	中学
		福島 旭 「希望をもって 喜ぶ」		(ショート礼拝)		大塚 慎 「みんな、いっしょ に、生きるために」
	山田 真理 「困りを取り除 いて」	岡崎 菜佳子 「手」	(ショート礼拝)	岡崎 岳 「弟子たちとペドロに」		
高等学校	塚本 潤一 「一緒に喜んで ください」	伊勢 富士夫 「愛されている」		真下 潤 「おそれるといふ」		伊勢 富士夫 「完全な者」とは、 「消しゴムより もベタ」
		遠藤 勇司 「人の言うことを いちいち気にするな」		真下 潤 「おそれるといふ」		小笠原 純 「どうして知った痛みが 未だに僕を支えている」
		上内 鏡子 「怒り、涙、喜び」		真下 潤 「おそれるといふ」		横山 順一 「不幸せなら態度で 示そうよ」
		塚本 潤一 「一緒に喜んで ください」		上内 鏡子 「二番難しい こと」		横山 順一 「不幸せなら態度で 示そうよ」
		米加田 周子 「エリ、エリ、レマ、 サバクタニ」		上内 鏡子 「二番難しい こと」		横山 順一 「不幸せなら態度で 示そうよ」
		遠藤 勇司 「エスケ ホモ」		上内 鏡子 「二番難しい こと」		横山 順一 「不幸せなら態度で 示そうよ」

講師紹介（ABC順、敬称略）

遠藤 勇司（日本キリスト教団高の原教会牧師）、福島 旭（関西学院中学部宗教主事）

浜本 京子（日本バプテスト連盟医療団日本バプテスト病院チャプレン）

伊勢 富士夫（日本キリスト教団天満教会牧師）、上内 鏡子（日本キリスト教団神戸イエス団教会牧師）

真下 潤（日本キリスト教団島之内教会牧師）、小笠原 純（日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師）

岡崎 菜佳子（日本キリスト教団正教師、岡崎 岳（日本キリスト教団須磨教会牧師）

大塚 慎（日本キリスト教団宇治教会牧師）、塚本 潤一（日本キリスト教団高崎教会牧師）

山田 真理（日本キリスト教団上島羽教会牧師）、横山 順一（日本キリスト教団石橋教会牧師）

米加田 周子（日本キリスト教団釜ヶ崎教会牧師）

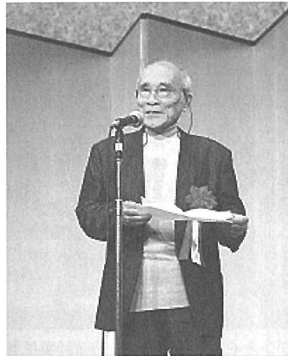
小学校

●開校式

3月30日

同志社小学校の開校式が小学校アリーナ（体育館）で開催された。中学校のホザナコーラス部が澄みきった声で賛美歌や小学校校歌を合唱し、開校に花を添えてくれた。開校式・校舎見学に引き続き、小学校校門前に建てられた良心碑の除幕式が行われた。

式後、京都宝ヶ池プリンスホテルで、給食の試食を兼ねた開校式祝賀会が開かれた。席上、校歌作詞者の詩人・谷川俊太郎氏が同志社小学校で育つ子どもたちへの思いを込めて、校歌の歌詞を朗読された。



校歌の歌詞を朗読する
谷川俊太郎氏

ダンスや寸劇などを行い、午後からはその月に誕生日を迎えた園児と父母・教員が昼食を共にし、ケーキにローソクをつけてお祝いした。（毎月1回行われる）

●団体鑑賞

1月30日

全園児でバスに乗り、「ピノキオ」人形劇を観に行った。

●ハートフルフェスタ（バザー）

2月4日

バザー委員（保護者）を中心に、親睦を目的に幼稚園で行われた。園児は、餅つきやステンドグラス作り、陶芸などを楽しんだ。

●参観日

2月6・10日

自由遊び、クラスの設定保育の様子を保護者が参観した。

●人形劇鑑賞

2月28日

全園児で人形劇を観て楽しい時を過ごした。

●マラソン大会

3月1日

保護者の応援の中、全園児で鴨川の土手をマラソンした。

●移動動物園

3月2日

トラックに乗ったウサギやアヒル、サルなどの動物がやってきて、園庭で全園児が動物との触れ合いを楽しんだ。

●卒園お茶会（年長組）

3月6日

●入学式

4月10日

小雨の降る中、1年生90人、2・3年生各60人の計150人が、保護者とともに初登校した。

入学式では、鈴木直人校長が、歓迎の気持ちを含め、自ら児童一人ひとりの名前を記入した子ども讃美歌集を手渡した。子どもたちは感激した面持ちで受け取り、式では、その讃美歌集を使い全員で賛美歌を歌った。全てが新しい同志社小学校がいよいよスタートする記念すべき1日となった。

●校祖墓参と遠足

5月11日

この活動は学年を超えた縦割り班で行われた（ちなみに小学校ではこうした縦割り班での活動を「ワイルドローバー活動」と呼んでいる）。校祖新島襄の墓前では礼拝が行われた。新島襄の墓前だけでなく、自分たちのクラスの名前の由来となっているEarly（ハーディー）のお話を聞いたり、Davis（デイヴィス）やLearned（ラーネット）の墓前で手をあわせ祈る子どもたちの姿は感動的だえあった。

その後、縦割り班ごとに遠足に出発した。行き先や活動内容は、班の中心である3年生が考えた。3年生は責任を持つ



移動動物園での楽しいひと時

紫組の園児が一年間の茶道のお稽古のお点前を保護者に披露した。

●園外保育

3月7日

年中・年長組の園児が「防災センター」を訪ね、安全についての体験学習を経験した。

●卒園記念礼拝

3月10日

年長組の親子で中学チャペルにて卒園の礼拝を行った。

●卒園式

3月16日

て1・2年生をリードしていた。

●同志社タイム

子どもたちに多様な体験をさせるため、大学の全面的な支援による同志社タイムが2回開催された。1回目は5月8日大学文学部山田和人教授をコーディネーターとして、大蔵流狂言師木村正雄先生や観世流シテ方井上裕久先生が「狂言」や「能」で新島襄の心を子どもたちにわかりやすく伝えてくださった。日本の伝統芸能に触れながら新島精神の真髄に触れることができた1日だった。

2回目は6月29日大学応援団に來校していただいた。応援団指導部の迫力のある応援。きびきびとした動きのチアリーダー。楽器紹介もしてくださった吹奏楽部。小学生も保護者も声をはりあげ一緒に歌った「若草萌えて」や「カレッジソング」「小学校校歌」―校舎中に響きわたるその歌声は、まさに同志社人の一体感を感じさせる感動的なものであった。

幼稚園

●お誕生会

1月18日

午前中全園児と教諭が歌を歌ったり、

年長組44人の園児が卒園証書を受け取り、お別れの言葉や歌を歌った。

●入園式

4月12日

三歳児30人が入園。

●イースター礼拝

4月15日

全園児でイースターのお話を聞き、ゆで卵を持ち帰ってお祝いした。

●懇談会

4月18・20日

●遠足

5月25日

年少組は親子で、年中・年長組はクラス毎に植物園へ遠足に出かけた。

●参観日

6月1・7日

●花の日礼拝

6月9日

園児たちが花を持参し、感謝の礼拝を行った。

●個人面談

6月12・29日

年少・年中組と年少組の希望者を対象に行った。

●健康診断

5月9日

●茶話会

6月14日

内科	5月9日
歯科	6月14日
検尿・耳鼻科	6月16日
年長組	6月15日
年少桃組	6月22日
年中組	6月27・29日